

社会福祉法人はぐくみ会 2018 年度事業報告

I はじめに

2018 年度におきましても、将来計画の具体化と人材育成を大きな柱に取り組んでまいりました。これらのことにつきましては、ここ数年の当法人の大きな課題であります。みんなの願いをみんなで行き届かせること、そのことに、法人の内部だけでなく広く地域の関係者を巻き込みながら、取り組んでまいりました。それは、まさに共同作業所作りの原点だと思っております。

当作業所ができた 29 年前と比べると、見える景色は大きく様変わりしています。法律や制度も良くも悪くも変わっています。無認可共同作業所の補助金制度もなくなりました。国の法律も措置から契約へと様変わりし、いわゆる福祉に対する価値観や責任といったものも変わってきていると感じます。社会福祉法人の制度改革もありました。今一度、社会福祉法人としての役割を確認し、取り組むべき事業内容を検討していく必要があります。それは、突き詰めると理念の再確認になるのではないのでしょうか。

当法人の将来計画は、決して当法人のためだけの計画ではありません。計画の内容は、地域課題の解決のためのものであり、守山市の障害福祉計画にも大きく寄与するものであります。「一人の困っている人のために、みんなで知恵を出す。」そんな思いで取り組んでまいりました。

しかしながら、「生活介護事業所の創設」「障害の重い人たちのためのグループホームの創設」といった計画については、到達には至っておりません。

これまで取り組んできたことの積み上げを、どう次につなげ具体化につなげていくのか。しっかりと論議をし、取り組んでいく必要があります。その中で、場合によっては計画の変更も必要といったことになるかもしれません。ただ、それは消極的な後ろ向きな話ではなく、地域課題に向けた前向きな計画内容でなくては意味がありません。

そのためにも、しっかりとした総括が必要です。どうか、皆様の忌憚のないご意見をいただけますよう、宜しくお願い致します。

～当法人の理念～

障害者・家族・関係者の願いに基づき、障害の種別や程度にかかわらず、障害者が社会の一員としていきいきと生きるための労働と生活の場を保障し、併せて地域社会に根ざした社会的自立と福祉の向上を図る。

II 障害福祉サービス事業（生活介護・就労継続支援 B 型）

事業計画

項目	期間	事業内容	中間総括	年間総括
1 仲間、一人ひとりの課題、ニーズに合わせた取組みを考える（継続）	年間	<p>(1) 仲間一人ひとりについて、職員は常に仲間への理解を深め、思いを汲み取りながら、毎日の取組みや活動を考えていく。</p> <p>理解を深めていくために、これまでの記録用紙を変更するとともに、記録の仕方についても職員間で藤一し、個人日誌を充実させる。</p> <p>(2) 個別支援計画の内容をしっかりと論議していき、職員全体で仲間の支援について共通認識し、支援</p>	<p>(1) 今年度は新しい職員が数名入り、体制も変わったため、仲間一人ひとりへの理解を深めていくということについては、その都度、職員全体で意識を持つ機会を設けてきたが、より一層、仲間への理解を深めるためには、バタバタせず、落ち着いて仲間の様子を感じ、支援が出来るよう努力していく必要がある。また、記録用紙についても、手順書と記録用紙を合わせたものを新たに作成し活用を始めたこと、また、これまでの記録用紙においては、特記事項の記録が出来るように変更した。以前に比べ細かく記録が出来るようになったと感じる。今後に向けては、記録用紙の見直し等を含め、職員で検討論議を行っていくことが必要である。</p> <p>(2) 定期的に支援計画を確認することについては会議を設定し、再認識する時間が持てた。しかし、支援のばらつきはまだまだあると思われる。今年度は新しい職員もいるため、職員間での共通認識をより丁寧に行っていく必要がある。また、個人の目標などを常</p>	<p>(1) 仲間のことを知る、理解を深めるということについては、その都度、職員が意識する機会があったが、中間総括においても課題としてあげていた、職員が日中、バタバタしていることで、落ち着いて仲間の細かな様子に気付いていなかったことも多くあったと感じる。その日一日、仲間が満足のいく一日であったかどうか、仲間とのやり取りから感じ、次に繋げていけるよう取組んでいくことが課題とされる。</p> <p>また、日誌の記録については、記録用紙の変更をし、日誌の充実に向けてきたが、不十分と感じる点もあるため、職員で検討する必要がある。（仲間一人ひとりに必要な内容の検討と様式の工夫）</p> <p>(2) 限られた時間内ではあるが、仲間一人ひとりの支援について再確認することが出来たと感じる。また、年間計画としていた、個別支援計画の見直し時期の半年の中間で、支援の状況確認や仲間の様子についても職員間で確認、情報共有する時間が持てたことは良かった。しかし、支援の確認は出来ているが、</p>

		<p>のばらつきがない様、取組んでいく。また、支援の内容が仲間に合ったものとなっているか意識をし、取組みをすすめていくために、定期的に支援計画を確認する時間を設ける。(年間の会議日程の設定、個人日誌に目標などファイルし意識付けをしていく)</p> <p>(3) 職員は、常に仲間や家族の願いを汲み取り、今必要な支援、そして、将来を見据えて必要な支援は何かと積極的に論議をしていく。そのために、職員</p>	<p>に意識できるようにファイルをしていくことがまだ出来ていないので、しっかりと取組み、よりよい支援に繋げていく。</p> <p>(3) 将来計画の会議や個別懇談、また日々の送迎や連絡帳などを通じて仲間の方と家族の方の思いを汲み取ろうという意識は高まってきたと感じる。その意識を継続していき、今以上に関係を深めていく努力をしていく。また、職員間で思いや願いを共有していくことが大事である。</p>	<p>日々の実践においては職員の意識不足、理解不足がまだまだあるため、支援のばらつきがある。そういったことをなくしていくためのひとつとして常に支援について意識できるように個人ファイルへ目標を提示するとしていたが出来ていない。次年度の課題として取組む。</p> <p>(3) 中間報告にもあるように職員も意識が高まっていると感じるが、話の内容によっては、話し辛い内容もあり、思いの聞き取りが難しいと感じることもある。さらに、仲間の方や家族の方の願いを感じていけるように関係作りに努力をしていく必要がある。</p>
--	--	--	--	---

<p>2 就労支援事業 の収支について</p>	<p>年間</p>	<p>は、今まで以上に仲間や家族の方との関係を深め、一瞬の様子や話から思いを汲み取れるよう努力していく。また、当法人が取組んでいる、将来計画実現委員会へ、願いや思いを伝えていく。</p> <p>(4) 実践において、発達保障の視点を大切に、仲間が働くことや生活の幅をひろげる、豊かにするといったことを職員で論議し、深めていく。(8月に所内研修をおこなう)</p> <p>(1) 毎月の取組みとして、グループ分</p>	<p>(4) 8月に所内研修を行った。発達保障とはと考える機会が持てたことは大変よかった。そのことを実践に繋げていけるよう、継続して職員で学習をし、論議を深めていくことが大事。</p> <p>(1) グループ分けをすることで、仲間一人ひとりを意識し、やり取りにも工夫をし、仲間に</p>	<p>(4) 今年度、取組めたことは良かったことであるが、取組めたことに満足するのではなく、そこが始まりとして、毎年継続して職員で学習の機会を持つことが大切だと感じる。職員一人ひとりが研修内容についても積極的に提案できるような意識を持ち、今後も継続していけるように、そして、日々の実践の充実に繋がるよう努力していくことが大切である。</p> <p>(1) グループ分けでの話し合いは、仲間一人ひとりにじっくりと関りながら、仲間に合った内容で少しず</p>
-----------------------------	-----------	--	---	---

<p>て、収入増を目指す（継続）</p>		<p>けをし、仲間一人ひとりに合わせた内容で、一ヶ月の頑張りを伝え合い、作業への期待や意欲に繋がるよう、お給料の話しをしていく。</p> <p>(2) 職員は作業ごとに年間計画を立て、やりきる意識を持ち取組んでいく。また、年間の収入見込みをふまえ、毎月の収支を確認し、意識しながら取組んでいく。(9月に中間総括をおこない、状況確認をする)</p> <p>(3) 今、取組んでいる作業について、収入増につながる工夫をする。ま</p>	<p>合った取組みとなってきた。各グループでの取組みの様子を報告し合い、今後に繋げていけるよう論議を重ねていくことが大切。</p> <p>(2) 計画に沿って取組んできたが不十分なところもあり、昨年度に比べて収入が減っている状況である。また、毎月の収支についての論議は時間の設定が不十分であると思われる。今後については、今以上の意識を持ち取組みを進めていくこと、また、職員間で状況把握に努めていく必要がある。</p> <p>(3) 新たに収入増につながる取組みとしては、製菓の販路が広げられたこと、また、リサイクル作業では回収先が少しずつ増えていることは評価できるが、その他については、積</p>	<p>つ取組めてきたと感じるが、取組み内容について各グループの様子を定期的に振り返り職員で論議する時間が持てなかった。振り返りをし、次に繋げることが大切なので、次年度は担当職員を中心に取組みについて論議、検討が出来るよう考えていくことが課題とされる。</p> <p>(2) 毎月の収支の報告を配布しているが、じっくりと確認と論議が出来ていない。夏季、冬季賞与時期、そして年度後半の時期に収入減の対策を検討するが、具体的に何をどうしていくかということについては、不十分であったかと感じる。次年度以降、どのように意識しながら取組んでいくか検討が必要である。</p> <p>(3) 中間報告にあげているように、評価できる取組みもあれば、まだまだ積極的に取組んでいない内容もあったと感じる。出店については、今後、それに変わる何かを検討するというところで、年度後半に論議出</p>
----------------------	--	---	--	---

<p>3 職員の資質の向上（継続）</p>	<p>年間</p>	<p>た、新たに収入増につながる取組みも積極的に意見を出し合い検討していく。</p> <p>(4) 収支だけにとらわれるのではなく、職員は仲間が働くということや、仲間のお給料についての論議も深めていく。 (会議日程 11月)</p> <p>(1) 職員の資質向上のため、年間計画をたて、研修に参加していく。また、支援が必要となってくる様々な研修についても、その都度、積極的に参加していく。職員会議では研修報告をお</p>	<p>極的に取組めていない。今年度、収入が減っている原因のひとつとして、出店が中止となったことがあげられる。今後については、出店に変わる取組みを模索していく必要がある。</p> <p>(4) 職員会議で仲間が働くということ、またお給料について積極的に論議する機会は少なかった。毎月のお給料の話し合いについても、取組みの振り返りが不十分であり職員間で共有ができなかった。11月の所内研修でしっかりと論議を深めていく。</p> <p>(1) 計画に沿って研修への参加は出来ているが、自らが積極的に研修への参加といった点については日中の体制や時間などのこともあり難しい。研修報告については、強度行動障害の研修の中で、支援についての手順書などを作成し、統一した支援に繋がられてきたと感じる。また、1月には研修報告の中からテーマを決め所内研修も予定しており、日々の実践に繋がっていける内容を考えていく。</p>	<p>来たことは良かった。次年度は、そのことにまず取り組んでいく。</p> <p>(4) 11月に所内研修として、仲間が働くということについて職員で学習、論議する機会が持てたことは良かったと感じる。職員一人ひとりが、仲間の姿を思い浮かべながら考える機会にもなったと思う。今後についても、より活発な論議をしていきこのテーマについて深めていけるようにと思う。</p> <p>(1) 年間計画に基づき、研修への参加が出来たことは良かった。また、その都度、案内のあった研修についても参加職員を決め、参加出来たと感じる。しかし、自主的に研修への参加希望はなかった。自らが学習への意欲を持てるように、職員同士で刺激もし合っ ていければと思う。 また、研修報告の仕方については、一定の様式にて報告をすることに変更していく。 そして、研修報告を基に行う所内研修は、実践力を高めていける機会として今後も継続していく。</p>
-----------------------	-----------	--	--	---

		<p>こない、日々の実践につなげていけるよう論議を深めていく。(研修報告より、テーマを取り上げ、所内研修をおこなう)</p> <p>(2) 職員全体が仲間の話しを積極的にし、日々の実践について振り返りや悩み、疑問を出し合い論議をしていく。(どんなことでも相談していけるよう、相談ノートを設け、日々の悩みなど記入し、職員で論議できるようにしていく)</p> <p>(3) 報告、連絡、相談を定着させるための</p>	<p>(2) 職員会議での発言は増えてきていると感じるが、さらに積極的な論議をしていく必要がある。また、日々の細かな様子など、じっくりと話せる時間も作ることが難しい。あと、なんでも相談ノートの活用が不十分なため、活用していけるよう再度やり方の検討をしていく必要がある。</p> <p>(3) 報連相の強化という点では、送迎時の仲間の様子や引継ぎなどを記録することで、報告をし忘れることが少なくなったと感じる。そ</p>	<p>(2) 中間報告にもあるように、仲間の話しをすることは増えてきているが、そのことについて日々、職員全体で情報共有をしたり、じっくりと話し合うことはまだまだ不十分である。時間の確保という課題もあるのかと感じる。</p> <p>また、なんでも相談ノートについては、活用がうまくできていないため、職員が悩みや気づきなど思うように書ける工夫が必要である。</p> <p>(3) 送迎ノートの活用で連絡や報告などを意識できるようになってきたことは良かったが、そのことを職員全体に伝達する方法には工夫が必要だと感じる。</p>
--	--	--	---	--

		<p>工夫をおこなう) また、職員のチームワーク力を高めていくために、職員体制を強化するとともに、職員一人ひとりが、周りを見れる力を身につけ、日々の実践の充実につなげる。</p>	<p>の他においては、不十分なところがあるため、引き続き意識を高めていく必要がある。また、職員一人ひとりが周りを見れる力を身につけることについては、まず、そういう意識を持つことが大切である。</p>	<p>職員間の連携という点においても、伝える側と受け取り側のズレがあると感じることも多くあるため、共通認識への強化が課題である。</p> <p>また、周りを見られる力を身につけることについては、不十分だと感じることも多いため、職員が意識していけるように今後も取組んでいくことが大切である。</p>
--	--	---	---	--

Ⅲ 公益事業
事業計画

項目	期間	事業内容	中間総括	年間総括
1 主たる介護者のレスパイトや緊急時の対応のための支援(継続)	年間	<p>(1) 主たる介護者のレスパイトや作業所での支援時間帯以外に起こった本人や家族の方の緊急時の対応をすることで障害のある人やその家族の安心した生活が営めるよう日中一時支援事業を行う。</p> <p>(2) 開所曜日、開所時間については、月 火 水 金 の 15:30~18:00 (土日については、要相談) とする。</p> <p>(3) 利用についての感想やニーズの汲み取りをおこ</p>	<p>利用回数は少ないが、対応はできている。しかし、利用し難い方もおられる。</p> <p>年度後半は、ニーズの汲み取りをし、仲間の方と家族の方の安心に繋げていく。</p>	<p>利用は少ないが、利用希望については対応が出来たと思う。しかし、中には利用がし難いと感じておられる方もあるのではということで、ニーズ調査を行うとしていたが、出来ておらず、次年度の課題とされる。</p>

<p>2 余暇に対する支援(継続)</p>	<p>年4回 ～6回</p>	<p>ない、今後の支援につなげていく。</p> <p>(1) 障害のある方の休日の過ごしを充実させることを目的とし、「はぐくみ良か余暇支援活動」を年4回～6回の実施を予定。</p> <p>(2) 参加される方が、四季を感じたり、色々な体験ができたり、自分たちが住んでいる滋賀の魅力が発見できる機会、また、ボランティアさんを通じて、人とのふれ合いを感じられるような活動とする。</p>	<p>参加される仲間の方は、期待され楽しい活動となっている。また、ボランティアさんも少しずつ増えており、この事業を支えて下さっている。</p> <p>活動内容は天候に左右されることがあるため、検討する必要があると感じた。</p> <p>今後については、来年度の活動資金作りに取り組み、事業が安定していけるよう努める。</p>	<p>今年度も参加される仲間の方のいきいきとした姿がみられる活動となったと感じる。</p> <p>様々な体験、経験を通して、生活の幅の広がりや、休日が豊かになる機会となったと感じる。</p> <p>また、新たなボランティアさんも増え、人とのつながりが出来たことは、仲間にとっても大変よかったと感じる。</p> <p>次年度は、より一層、仲間の笑顔に繋がる活動を目指し取り組んでいくこと、そして、協力いただけるボランティアさんの募集と活動の大切さを多くの方に知っていただく活動も取り組んでいくことが大切であると感じる。活動資金作りについてもしっかりと取り組んでいく必要がある。</p>
-----------------------	--------------------	---	--	---

IV 将来計画に関連する事業
事業計画

項目	期間	事業計画	中間総括	年間総括
1 障害の重い人たちの進路先の保障や住まいの場の確保を目的とした事業についての検討(継続)	年間	<p>(1) 現在、地域の養護学校に通われている児童・生徒の進路先の保障や主たる介護者の高齢化に伴う本人の生活の場の確保といった課題を解決するために、法人の将来計画として「生活介護事業所の創設」や「ホームの創設」といった新たな事業展開を検討する。</p> <p>(2) 新たな事業展開を検討するにあたっては、外部の方にも参画いただいている将来計画実現委員会と連携しながら進める。</p>	<p>今年度も、将来計画の実現に向けて特に土地取得が大きな課題があるとし、積極的に動いてはきた。</p> <p>しかし、現時点で土地取得のめどは立たず、国庫補助申請も間に合わずといったこととなっている。そのような中、現状の計画について、グループホームのニーズを考えた時に、進まない状況が続くことが、本人やご家族の家庭での生活の厳しさがある中、計画の変更も含め検討していかななくてはいけないとも考える。具体的なことについては、理事会レベルでの話となるが、今後、年度後半に向けて論議が必要と考えている。</p> <p>また、地域課題の解決といった視点では、地域との連携ということになるが、関係機関が集まる会議等には積極的に参加し、情報共有に努めてきた。その際に、どの法人でも大きな課題として人材確保について取り上げられる機会が多くなってきている。少子高齢化が進む中、事業の拡大はもとより、事業の継続といったことのためにも人材確保も今後の大きな課題にあると感じている。</p> <p>そのような中ではあるが、将来計画実現委員会の活動としては、各部会も開催し施設見学や学習会も行っている。11月に守山市長との懇談も開催し、行政との</p>	<p>相変わらず土地取得に難航している状況が続く中、理事会としては、年度後半に生活介護事業一本化の検討を行った。</p> <p>現状として、主たる介護者の高齢化が進み、老障介護の深刻化が進む中、グループホームのニーズが強くなってきている中、現計画のままでは、なかなか進まないグループホームの創設について早急に着手できる方法のひとつとして検討をしてきた。結論はまだ出ておらず、2019年度の継続課題とする。</p> <p>また、将来計画実現委員会の中で、守山市長との懇談会を11月に開催することができた。守山市の地域課題を行政と共有するといった意味では、大きな意味を持つものであった。</p> <p>その後、法人と市の障害福祉課で3月に進捗状況の共有を目的とし、懇談会を行った。その中で、土地のことでは市有地のリストの話があったが、条件的には厳しい情報しかなかった。くわえて国庫補助の話では、現状、申請しても採択される事業内容は、重心施設整備か地域生活支援拠点事業に限られる中、土地を取得した後も建設ができるかといった話もあった。</p> <p>また、圏域のサービス調整会議の部会に重度障害者部会(日中活動の検討チーム)があり積極的に参加した。その中で、生活介護事業所(創作タイプ)の資源不足の解決に向けて検討がされる中、4市(守山市、野洲市、栗東市、草津市)とし</p>

<p>2 土地確保に向けての取り組み（継続）</p>	<p>年間</p>	<p>(3) 地域課題として関係機関と課題について共有することが大事であり、県市との協議や圏域や市の自立支援協議会に積極的に参加し、情報の共有に努める。</p> <p>(1) 国庫補助申請を視野に入れ、新たな事業を行うための土地の確保に向けて、購入も含め検討実施する。</p>	<p>連携が不可欠であるといったことも確認できた。</p>	<p>て、人材不足への対応策として 2019 年度から独自の加算制度が始まることとなった。ただ、施設整備への対応としては、重心施設と同じような施設整備の考えはないとのことである。</p> <p>ここ数年、計画の具体化に向け取り組んできたわけではあるが、これまで取り組んできて積み上げられたことをもとにし、今後、計画をどう進めていくかについて、2019 年度は理事会としても再度検討が必要だと考える。</p> <p>あと、資金作りの取り組みについては、2018 年度も後援会と連携をしながら取り組むことができた。</p>
<p>3 資金作りの取り組み（継続）</p>	<p>年間</p>	<p>(1) 新たな事業実施に必要な自己資金について、後援会とも連携しながら積極的に取り組む。</p>		

V 地域との連携や地域貢献
事業計画

項目	期間	事業計画	中間総括	年間総括
1 地域の方々に応援していただくための取り組み（継続）	年間	<p>(1) アルミ缶・段ボール回収に対する協力の周知</p> <p>(2) 事業所の活動に対するボランティアの受け入れ</p> <p>(3) 後援会とも連携して「はぐくみバザー」を開催（9月）</p> <p>(4) 後援会とも連携して「はぐくみ映画会」を開催（翌2月）</p> <p>(5) きょうされんの署名活動などを通じて作業所や障害のある人たちのことを知っていただく。</p>	<p>後援会と連携し、8月に「はぐくみまつり」を開催し、地域の方々と交流する機会を持てた。また、11月に「はぐくみ市」を開催できた。</p> <p>また、行事の際のボランティアの確保については、「はぐくみ良か余暇支援活動」について今年度も若干名ではあるが、ボランティアの数が増えている。</p> <p>今年度後半に向けては、「はぐくみ映画会」を翌2月に予定しているので、しっかりと準備を進めたい。</p>	<p>年間を通じて、計画通り後援会との共催として「はぐくみまつり」「はぐくみ市」「はぐくみ映画会」と実施できた。特に2月に実施した「はぐくみ映画会」では、参加者数300名を超え、昨年度より多くの参加者となった。これらの行事は、地域の方々にはぐくみのことを知ってもらい応援していただくことを目的とし、長年行ってきた。</p> <p>また、それらの取り組みが実を結んだともいえると思うが、アルミ缶・段ボール回収への協力者も年々増え続けており、仲間のお仕事として収入源の大きな一つとなっている。</p> <p>ボランティアの確保についても、若干ではあるが増える結果となった。地域の方々の理解と協力が、作業所運営の大きな支えとなっていることを、あらためて実感している。</p> <p>あと、きょうされんの署名活動についても、街頭署名への参加や映画会での呼びかけなども行い、障害のある人たちの現状を地域の人たちへ理解していただくきっかけとなった。</p>
2 地域貢献のための取り組み	年間	<p>(1) 地域の方々との交流を目的に後援会</p>		

(継続)		とも連携して「はぐくみまつり」を開催 (9月)		
------	--	-------------------------	--	--

【2018年度事業実績】

○ 年間開所日数及び1日平均利用者数

	開所日数	昨年度比	平均利用者数	昨年度比
生活介護	257日	-2日	11.7人	±0人
就労継続支援B型	257日	-2日	3.7人	±0人
合計			15.4人	±0人

○ 職員体制

生活介護		就労継続支援B型	
管理者	1名 (内兼務1名)	管理者	1名 (内兼務1名)
サービス管理責任者	1名 (内兼務1名)	サービス管理責任者	1名 (内兼務1名)
生活支援員	10名 (内兼務2名)	職業指導員	1名
看護職員	1名	生活支援員	1名 (内兼務1名)
調理員	1名 (内兼務1名)	調理員	1名 (内兼務1名)
事務員	2名 (内兼務2名)	事務員	2名 (内兼務2名)

・2018年3月末時点

○ 入退所者数

	定員	入所者数	退所者数	現員（3月 末）	昨年比
生活介護	10	0	0	13	±0
就労継続支援B型	10	0	0	5	±0
合 計	20	0	0	18	±0

○ 事故報告について

活動中の大怪我（病院搬送）	1件	+1	発作時に転倒。背中から腰にかけ打撲したため救急で受診
活動中の怪我（軽微なもの）	15件	-2	転倒の際の打撲、仲間同士の接触による引掻き傷等
活動中の車両事故（物損）	0件	±0	
活動中の車両事故（人身）	0件	-1	
送迎中の車両事故（物損）	3件	+3	ブロック、電柱への接触。市内学校門前の花壇に接触
送迎中の車両事故（人身）	0件	±0	
火事・災害等による怪我	0件	±0	
食中毒の発生	0件	±0	
その他①	1件	+4	買い物活動中に店内で失禁
その他②	2件		昼食介助時、衛生面の確認不足 服薬介助の確認不足
その他③	3件		預かったメモの紛失、送迎ノートの紛失、引継ぎ時の伝達ミス

その他④	1件		職員用ノートパソコンの使用について
合 計	26件	+5	

- 〈課題〉
- ・軽微な怪我について、同じ状況での怪我があるため、より一層、職員の見配りを強化する必要がある。
 - ・怪我、事故対応マニュアルの作成等、安全対策と衛生面への意識の強化が必要である。
 - ・利用者の方のその日の様子を把握し、職員間で情報共有する意識の強化が必要である。
 - ・安全運転講習の実施と安全運転への意識付けの強化。また、必要に応じて個別の安全運転講習の実施。
 - ・報連相の強化。
 - ・ヒヤリハット表の活用方法の見直しが必要である。(内容について、職員で共有できるように)

○ 苦情解決について

(苦情受付件数と内容)

身体介助（衣服）に関するもの	1件	+1	着替え時の確認不足
身体の異常（怪我）に関するもの	2件	+1	傷が出来ている
施設環境に関するもの	0件	±0	
活動内容に関するもの	2件	+1	送迎時のスピード速い。送迎車が来ない
活動中の見守りに関すること	3件	+3	
家族の方に関すること	1件	+1	他の利用者から本人に関することを言われ不快な思いをされた
地域の方からに関するもの	1件	+1	まつりボランティア募集時に不手際
合 計	10件	+8	

- 〈課題〉
- ・利用者の方、また家族の方から聞いた内容は、大小に関わらず報告を行う必要がある。
 - ・要望についても苦情として捉え、より良い支援につなげていく必要がある。
 - ・ヒヤリハットの活用（苦情に繋がる可能性があることへの認識を持つこと。職員全体で確認する）、報連相の強化。

○ 虐待防止対応について
(虐待受付件数と対応)

	件数	昨年度比	内、虐待防止センター等への通報件数
所内における身体的虐待	0件	±0	0件
所内におけるネグレクト	0件	±0	0件
所内における心理的虐待	1件	±0	0件
所内における性的虐待	0件	±0	0件
所内における経済的虐待	0件	±0	0件
合 計	1件	±0	0件

- 〈課題〉
- ・虐待のチェックリストを活用する機会を増やし、虐待防止への意識を強化する必要がある。
 - ・虐待防止、人権への意識を持つ取組みをおこなう。

【2018年度評議員会・理事会等の開催状況】

〈評議員会〉

	開催日	出欠	場 所	議 案	結果
定時	18/6/16	出席者数 6 名欠 席者数 2 名	守山はぐくみ共同作業 所 多目的室	(1) 2017年度事業報告(案)及び2017年度決算報告について (2) 2017年度監査報告について	可決 可決
12月	18/12/15	出席者数 5 名欠 席者数 3 名	守山はぐくみ共同作業 所 多目的室	(3) 2017年度補正予算(案)について	可決
3月	19/3/16	出席者数 5 名欠 席者数 3 名	守山はぐくみ共同作業 所 多目的室	(4) 2018年度第2回補正予算(案)について (5) 2019年度事業計画(案)並びに2019年度当初予算(案)について (6) 2019年度役員報酬の総額について	可決 可決 可決

〈理事会〉

	開催日	出欠	場 所	議 案	結果
第1回	18/6/1	出席者数 5 名欠 席者数 2 名	守山はぐくみ共同作業 所 多目的室	(1) 2017 年度事業報告 (案) 及び 2017 年度決算報告に ついて (2) 2017 年度監査報告の承認について (3) 定時評議員会の開催について	可決 可決 可決
第2 回	18/12/7	出席者数 7 名欠 席者数 0 名	守山はぐくみ共同作業 所 多目的室	(4) 2018 年度第 1 回補正予算 (案) について (5) 12 月評議員会の開催について	可決 可決
第3 回	19/3/8	出席者数 7 名欠 席者数 0 名	守山はぐくみ共同作業 所 多目的室	(6) 2018 年度第 2 回補正予算 (案) について (7) 2019 年度事業計画 (案) 並びに 2019 年度当初予算 (案) について (8) 2019 年度役員報酬の総額について (9) 3 月評議員会の開催について	可決 可決 可決 可決